

平成30年度第1回石川県農林水産試験研究評価委員会 中間評価結果

日時：平成30年7月10日（火）10:00～12:00
場所：石川県庁行政庁舎1109会議室

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント	委員コメントに対する研究機関の回答・考え方等
1	農林総合研究センター 農業試験場	いしかわ園芸オリジナル品 種育成研究	H28～H32	①すでに品種登録したフリージア「石川 f 1 号」から「石川 f 7 号」とシリーズ化できる、八重の花形や新たな花色のフリージア新品種を育成する。 ②ナシ「新水」に替わる極早生、良食味で収量性の高いナシ品種を育成する。	A	○計画的に進んでおり、順調な進捗状況である。 ○新品種のブランド化に期待したい。 ○市場のニーズを把握し、それに応える形で取り組んでいる点が評価できる。 ○早生の加賀なしの市場価値は高いと考える。 ○販売、ブランド化等ルビーロマンに倣った戦略を立てるべき。 ○フリージアがエディブルフラワーとして利用できないか調査してほしい。 ○花の活用も変化しているので、柔軟な対応で進めてほしい。 ○ナシ全体の需要はどんなものか。市場は縮小しないのか。 ○今後は高品質かどうかを決定できる方法について研究してほしい。	○現在、ルビーロマンや加賀しずく等と同様にエアリーフローラにおいてもプレミアム規格を設定するなど、ブランド化に努めている。また、生花店や一般消費者向けのPR活動は今後も継続して行っていく。 ○エディブルフラワー（食用花）としての利用については、現在、登録農業がなく、現状の栽培方法では合致しないことから、無農薬栽培を考える必要がある。 ○石川県における平成29年のナシの卸売価格はおよそ2億4千5百万円である（農林水産省「石川県農林水産統計年報」）。近年、国民一人当たりの果実消費量は微減傾向にあるが、ナシは好きな果物ランキングで第4位になるなど、その人気は高い（NHK放送文化研究所世論調査部（2007）「日本人の好きなもの」）。今後はさらなる新品種を導入することで消費を刺激し、需要の拡大を目指していきたい。 ○耐病性や果実品質が検出可能なDNAマーカーを用いた選抜について、他県や国の研究機関と連携し、今後も情報収集をすすめるとともに、実施について検討していきたい。

※A：優先的に実施することが適当、B：実施することが適当、C：計画等を改善して実施することが適当、D：実施の必要性が低い、E：実施の必要性が認められない